

福祉文教常任副委員長 小口 智世

1 神奈川県大和市 大和市立引地台中学校分教室

「学びの多様化学校（不登校特例校）について」

大和市青少年相談室長服部剛さんから説明を受けた後、分教室の校舎内を視察した。

○服部さんの説明の内容

- ・市長の鶴の一声で、準備期間 1 年足らずで令和 4 年度開室。
- ・不登校施策の「要」ではなく、他の「教育支援教室」などと合わせて「新たな選択肢の一つ」としての位置づけ。
- ・入室にあたっては、必ず保護者と本人に見学してもらい、本人の「行きたい」という意思を確認している。
- ・大和市は小学校が 19 校、中学校が 9 校。
- ・不登校の人数は、令和 5 年中学校で 387 名。6.52%と、全国平均より低い、長期になる傾向がある。

○校舎内視察

- ・ヨギボーなどが置いてあり、どこで過ごしてもいい。
- ・調理に熱心な生徒が、黒板の隣に D I Y で調味料を置く棚を作ったり、本格的な包丁を用意してある。
- ・くじゃくの羽を飾った「映えスポット」、ドラムセットなど、思い思いに関心のある活動をしている様子。

○感想

- ・服部さんの、「『学校らしくない学校』づくりを心掛けていて、『学校の当たり前』や『固定観念』を取り払っていくよう、本校にも伝えている。」「それが伝わって、いつかここがなくなるといい。」という言葉が印象に残った。
- ・箕輪町の小中学校も、児童・生徒の個性を大切にした学校づくりをしていけるといいと思った。

2 神奈川県川崎市 川崎ラクシル（官民共同運営）施設見学

「運営面の仕組み、評価課題などについて」

相談員の近藤さん、特別養護老人ホーム施設庁の村石さんから説明を受けたのち、施設内を視察した。

○近藤さん、村石さんの説明の内容

- ・「川崎ラクシル」は、2021 年 3 月に開設。「ラクシル」というのは、「らしく」と「くるむ」を合わせた言葉。
- ・川崎市と、社会福祉法人三篠会の共同運営。
- ・建設業者が建物を建て、市と法人が、フロアーや部屋を買い取る形。管理もそれぞれが行っている。

○施設内視察

- ・1 階の通所施設の部屋の隣に、事業所内保育所があり、通所施設を利用する高齢者が子どもたちと触れ合える場所になっている。
- ・特色は、聴覚障害者用のフロアがあること。広島で、三篠会が聴覚障害者専門の施設を作ったところ、関東でも作ってほしいという要望があった。
- ・入所施設の各ユニットの入り口は、利用者の「家」にするため、玄関のような造りになっている。

- ・トラブルの原因は、音と空調が多いため、空調の調整は各部屋でできるようになっている。

○感想

- ・建物の共有部分は、市と法人とで管理組合を作って管理しており、市からの委託契約ではないので、業者の選定に融通が利くという利点があるとのこと。市と法人とで、柔軟なすみ分けと連携ができていると感じた。
- ・施設内に高齢者と子どもが触れ合える場所があり、多世代交流ができている所が魅力だと感じた。
- ・箕輪町では同じような施設は無理かもしれないが、部分部分で参考にできる点はあると感じた。

3 神奈川県川崎市 川崎市子ども夢パーク

「子供の権利条例との関係、行政のかかわり」

NPO 法人フリースペースたまりばの西野さんから説明を受けたのち、プレイパーク内を視察した。

○西野さんの説明内容

- ・川崎市では、「川崎市子どもの権利に関する条例」が全国に先駆けて 2000 年に制定された。
- ・「川崎市子ども夢パーク」は、条例を具現化する場として 2006 年に作られた。西野さんは、15 年間所長を務められた。
- ・権利に関する条例の制定にあたっては、1998 年から 2 年間に、子どもたちも入れて 200 回の会議が持たれた。大人からは、「権利」が「わがまま」につながると反対があったが、説得した。
- ・市長を誘ったら来てくれて、一緒にどろんこになって遊んだ。その後、市長がシャワールームを作ってくれた。
- ・市からは、指定管理料として年間 8,900 万円支払われている。人件費で足りない部分は、NPO で寄付を集めたりしている。

○プレイパーク視察

- ・火を使ってもいいし、のこぎりを使ってもいい。
- ・滑り台の先には水を張れる池のようなものがあり、大人も子どももどろんこになって遊べる。
- ・雨天でも遊べる屋根付きの広い遊戯場、井戸、地中トンネル、畑、薪を乾かす小屋などがある。

○感想

- ・とことん子どもたちの主体性を大切にしたプレイパークで、まさに「こともまん中」を具現化した場だと感じた。
- ・どろんこになる滑り台や地中トンネルなど、自分もやってみたくてワクワクした。
- ・改めて、「子どもの意見を聴くこと」の大切さを感じ、箕輪町でも、子どもの権利を守ることの大切さを、町全体で再認識することが必要だということ、それがこれからの箕輪町の未来に繋がっていくということを感じた。

全体を通じて

- ・3ヶ所とも、子ども、利用者ひとりひとりのウェルビーイングを大切にした活動がされていると感じた。
- ・参考にできる点は箕輪町にも活かしていきたい。